



TITLE:

和歌山県白浜町沿岸に漂着した希少種のヒクラゲ(刺胞動物門, 箱虫綱, イルカンジクラゲ科)

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. 和歌山県白浜町沿岸に漂着した希少種のヒクラゲ(刺胞動物門, 箱虫綱, イルカンジクラゲ科). 漂着物学会誌 2016, 14: 45-45

ISSUE DATE:

2016-12

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/217875>

RIGHT:

© 2016 漂着物学会

久保田 信¹：和歌山県白浜町沿岸に漂着した希少種のヒクラゲ（刺胞動物門，箱虫綱，イルカンジクラゲ科）

Shin KUBOTA¹ : A rare cubomedusa *Morbakka virulenta* (Cnidaria, Cubozoa, Carukiidae) washed ashore at a seacoast of Shirahama Town, Wakayama Prefecture, Japan

ヒクラゲ *Morbakka virulenta* (Kishinouye, 1910) は箱虫綱 Cubozoa のクラゲの中では特大種で，強い刺胞毒を持つことでよく知られ（久保田ほか 2012；久保田・足立 2013），沖縄を除く南日本に分布する（久保田 1998, 2014, 2015）．近年，多産する瀬戸内海で本種の出現や成長に関する報告がなされた（岡田ほか 2014）．

和歌山県沿岸での本種の記録はごく少数で，これまでの採集記録としては，白浜町袋湾で2000年6月27日採集の傘径90mm個体（上野ほか 2001；久保田 2014），岬町多奈川での2004年12月と2007年10月に，傘径95mm，115mm，140mmの計3個体，和歌山市加太で2007年12月に傘径140mm（大塚ほか 2009），みなべ町ショウガセで2010年1月11日に森ほか（2010）が傘高11cmを報告しているだけである．田辺湾からは，2005年12月25日に白浜町南海棧橋付近で傘高15cmの生体が採集されたのみである（久保田 2014）．

今回，2016年1月22日正午頃に，京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”の波打ち際に，1個体のヒクラゲが漂着した（図1）．研究室に直ぐに持ち帰り，傘内にたまった砂を出して水槽に収容すると，わずかながらも拍動も見られ，生体であって，体がほとんど傷んでおらず，4本の触手はピンク色で，傘高14cmであった（図2）．この時点に至るまで“北浜”にヒクラゲが漂着したことはない（久保田 2004, 未発表）．

この翌日の2016年1月23日午前10時過ぎに，白浜町瀬戸漁港の最奥部の岸壁斜路の波打ち際付近に，ヒクラゲ1個体が吹き寄せられていた．採集して形態を観察すると，触手は全て取れており，かなり傷んだ死体であったが，傘高は13cmであった．長年，毎日のように，クラゲ類の目視調査を実施しているこの地点でも，今回が初めての出現となった（久保田 未発表）．

これ以降は“北浜”への打上や瀬戸漁港での遭遇はなかったが，上記の記録の直後，京都大学サーフィン部の学生15人が田辺湾内で100個体ほどのヒクラゲに遭遇したと知らせて下さった．これら大型のヒクラゲは田辺湾付近で成長したものではなく，他の場所から，たとえば瀬戸内海（岡田ほか 2014参照）から流されて来たのであろう．

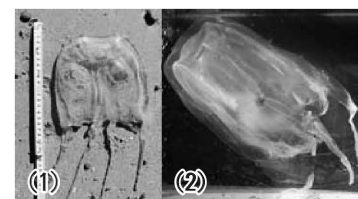


図1, 2 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海所“北浜”に漂着したヒクラゲ(1)とその水槽内での形態(2)

引用文献

- 久保田 信. 1998. 田辺湾周辺海域の腔腸動物 立方水母目（刺胞動物門，立方クラゲ綱）．瀬戸臨海実験所年報，11：33-34.
- 久保田 信. 2004. 和歌山県白浜町番所崎の通称“北浜”へ漂着した大形クラゲ類の異例な季節変化—前報との比較を含めた続報．漂着物学会誌，2：25-28.
- 久保田 信. 2014. ヒクラゲ. In 魅惑的な暖海のクラゲたち，p.100，紀伊民報，和歌山県.
- 久保田 信. 2015. ヒクラゲ. In 峯水亮・久保田信・平野弥生・ドゥーグル・リンズィー，日本クラゲ大図鑑，p.277，平凡社，東京.
- 久保田 信・岡田真一・山田豊隆. 2012. 希少種ヒクラゲ（刺胞動物門，箱虫綱，アンドンクラゲ科）の触手断片とその刺傷例．日本生物地理学会会報，66：35-37.
- 久保田 信・足立 文. 2013. ヒクラゲの刺傷．Kuroshio Biosphere，9：31-34，pl.1.
- 大塚 攻・上野俊士郎・藤井直紀・村井貴史・重田利拓・河原正人・佐々木克明・下埜敬紀・高橋 卓・小島太一・富川 光・奥泉和也・河村真理子・久保田 信. 2009. 瀬戸内海及び和歌山県西部沿岸における大型立方クラゲのヒクラゲ *Tamoya haplonema* の分布と生態. 2009年度日本海洋学会春季大会発表要旨（東京）.
- 岡田昇馬・近藤裕介・平林 丈・橋本周一郎・戸篠 祥・三宅裕志・足立 文・浦田 慎・大塚 攻. 2014. 瀬戸内海産大型立方クラゲ類ヒクラゲの出現と成長に関する知見. 広島大学総合博物館研究報告，6：1-5.
- 上野俊士郎・河村真理子・佐々木克明・久保田 信・山口麻美. 2001. 最近のヒクラゲの出現と若干の生物学的観察. 2001年度日本海洋学会春季大会発表要旨（東京）.
- 森 喜信・久保田 信・上野俊士郎. 2010. 和歌山県みなべ町沿岸で小型魚類を捕食した希少種ヒクラゲ（刺胞動物門，箱虫綱，アンドンクラゲ科）．南紀生物，52（1）：16-17.

(Received Feb. 3, 2016; accepted Mar. 3, 2016)

¹ 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町459

¹ Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University 459 Shirahama, Nishimuro, Wakayama, 649-2211 Japan